



税で豊かになる私たちの生活

大田区立御園中学校 三年 森 慧希

私たちが普段当たり前のように生活できるのは、税のおかげであると思います。学校に通えることや、病院で治療を受けられること、街の安全や公共のサービスを使える、どれも税がなければ成り立たない。普段はあまり気づかないけれど、生活のあらゆる場面に税は関わっている。私たちは毎日安心して過ごしているが、その背景には、目に見えない多くの人の努力と、税という仕組みが私たちの毎日を安心して満たしているのだ。

私は中学二年生とき、職場体験で都税事務所に行き、税の仕組みを学んだ。パンフレットや資料を作ったり、所得税の計算を少し体験したことで、税が社会を支えていることを身近に感じられた。体験は単なる作業のように見えるかもしれないが、私にとっては「税は私たちの生活を守る大切な力」ということを知る大きなきっかけとなった。

税は、私たちが普段何気なく使っている環境やサービスのすべてに関わり、私たちの生活を支えている。目には見えないが、生活に役立っているのだ。

私は正直、税について考えたことは無く、興味や探求心すら無かった。しかし、職場体験で学んだ「税は社会を支える」という考えと、身近な

生活の例が重なったことで、毎日の生活の安心や便利さは、目に見えない形で守られているものだと感じた。

また、税はただでなく、未来にも役立っている。教育への支出は私たちが将来社会に出るための基盤になる。今、私が学校で学んでいることは社会に出たら必ず役に立ち、学んだことが誰かに、そして社会に活かされていく。医療や防災の仕組みも同じで、現代の世代の安心を守るだけではなく、次の世代が安心して暮らせる土台をつくっている。税は今と未来をつなぐかけ橋のような存在だ。

この体験を通して、私は「税は自分には関係ないこと」という考えを大きく変えることができた。誰もが少しずつ負担することで、大きな安心が生まれる。その積み重ねによって社会は成り立ち、私たちの日常は守られているのだと、強く感じた。

これから私は高校生となり、やがて大人として税を納める立場になる。そのときにはただ「お金を払う」という感覚ではなく、「自分の税が誰かの学びや安全を支えている」と思える人になりたい。都税事務所での体験は税の存在をはっきりと意識させてくれた。そして私は確信している。税は私たちの暮らしを包みこむ柔らかな光であり、その光がある限り、社会は安心と希望に満ちていくのだ。

これからの未来を思うとき、私はその光をより強く輝かせる一人になりたいと願う。税を学び、支え、受け継ぐことは単なる義務ではなく、社会全体をより明るい方へと導く大切な営みだ。そのことを私の胸に刻み、私は歩んでいきたい。